

水晶内制度

笹野頼子著(新潮社 2003.7)

妊娠すれば「男かな? 女かな?」と話題に上り、おぎゃー、と生まれた瞬間「はい、女の子です」と性別が一番先にチェックされる。中性がないから、人は男か女かのどちらかに分けられる。私の好きな作家・笹野頼子は幼い頃から中学生になるまで自分はやがて男になるのだと固く信じていたという。

彼女の作品に通底しているのは外界の息苦しさと内部に秘められたパワーとの拮抗のダイナミズムである。デビュー作から数編は主人公が男性だった。著者の感じる息苦しさの大きな要因に「女であること」が機軸にあり、自らが作り上げる物語内で「女」を消去してみると何が見えるのかを実験してみたかったのだと思う。それによって、自身に粘着している「女」を切り離してみることが可能になったのかもしれない。

私も人為的に植えつけられた価値観を、曲げられない真実であるかのように思い込んでいたことが山ほどある。たとえば父に「女の子は素直が一番」と躰けられていたのだが、だまされやすく、素直なんて少しもよくない! と気づいたのはすいぶん痛い目にあってからだった。そういえば、最近の公共図書館には「赤頭巾ちゃん」の新バージョン絵本があり、狼の言いなりになって食べられてしまった赤頭巾ちゃんは猟師によって救出されないままラストを迎え、最後のページに「いわれたことをそのまま信じると、こういう目に遭うのです。気をつけましょう」とある。時代は変わった。

「女は穢れているから土俵には上がれない」——そうか女は穢れているのかと信じ込むことは今こそはないが、繰り返し刷り込まれていることは根強く人の価値観を構築し



ていく。「古事記」において女が先に誘って交わったからヒルコが生まれた、女は誘うものではない、誘われるものだという解釈が一般的に憚りもなく語られてきた。男/女が対比されて語られる場合は、なぜか女は劣位に置かれている。でも、それはどうして? 神話がそうなっているから? この日本国の無意識を構築している「古事記」や「日本書紀」まで遡って、それが誰によって何のためにそう書かれているのかを暴き、物語を新しく書き換えてみよう、と真正面から取り組んだのが笹野頼子の新著「水晶内制度」である。笹野作品は難解といわれ、確かに本作もすらすら読めないが、勇ましさには圧倒される。天晴れ!

(法学部助教授 山崎真紀子)

貸出図書BEST10 人文科学

- 1 松本裁判 松本人志著
ロッキング・オン 2002(049||Ma81)
- 2 読書の歴史:あるいは読者の歴史 アルベルト・マンゲル著/原田範行訳
柏書房 1999(020.2||Me43)
- 3 休んだ日に席がえ?! ふかわりよう著
扶桑社 1999(049||F72)
- 4 ダークサイド・オブ・ザ・ロック:殺人・悪魔崇拝・ドラッグ・発狂…いまお続く(バビロンのすべて
洋泉社mook 洋泉社 2001(767.8||D31)
- 5 W杯(ワールドカップ)戦士×乙武洋匡:フィールド・インタビュー 乙武洋匡著
文芸春秋 2002(783.47||O86)

- 6 ギリシア神話(図解雑学:絵と文章でわかりやすい!) 豊田和二監修
ナツメ社 2002(162.31||G47)
- 7 Let's playビリヤード 平林英里子監修
池田書店 2000(794||L56)
- 8 世界の歴史(図解雑学:絵と文章でわかりやすい!) 岡田功著
ナツメ社/ナツメ出版企画 2001(209||O38)
- 9 世界の神話伝説:総解説 改訂増補版(Multi book) 吉田敦彦他共著
自由国民社 2002(162||Se22)
- 10 手にとるように心理学用語がわかる本:「自己」と「他者」の関係を探る 渋谷昌三、小野寺敦子著
かんき出版 2002(140||Sh23)

(2002.4.1~2003.3.31の貸出データによる)